

□ 主な内容

【第 39 回 EST 創発セミナー in 姫路〔近畿〕の参加者募集中！】

来年 2 月 26 日 (火) に兵庫県姫路市で「モビリティでよみがえる地方都市空間 (仮)」をテーマに第 39 回 EST 創発セミナーを開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu59.html>

【第 10 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！】

EST 交通環境大賞の応募を受付中です。〔応募締切: 2019 年 1 月 7 日〕

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2018.html>

目次

1. 寄稿 (1) 「環境的に持続可能な交通を目指して」 (第 148 回)

- 「都市交通として見たシェアサイクルのトータルデザインの必要性 ～量から質へ～ ネットワークとして機能するためのシェアサイクル」

【公益社団法人日本交通計画協会 交通計画研究所 三浦清洋】

2. 寄稿 (2) 「地方から全国に向けた情報発信！」 (第 148 回)

- 「地域交通と観光交通が一体となった環境にやさしい交通体系づくり」

【弟子屈町地域公共交通活性化協議会 事務局 高田佑人】

3. ニュース／トピック

- 第 10 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！【EST 普及推進委員会】
- 「平成 30 年度エコドライブ活動コンクール」の結果を発表しました【エコモ財団】
- MaaS などの新たなモビリティサービスの全国展開を目指します～第 2 回「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」の開催～【国土交通省】
- グリーン物流パートナーシップ会議で優れた取組を表彰【国土交通省】
- 電気自動車のバッテリーを有効活用するエネルギーマネジメント技術を開発【三菱電機】
- 廃棄物発電を活用した「エネルギー循環型ごみ収集システム」による EV ごみ収集車 (電池交換型) を実用化します【川崎市】
- 静岡市でモーダルシフト説明会【JR 貨物】
- 自家用車に代わる移動手段を募集する競技会を開催【スウェーデンエネルギー庁】

4. イベント情報

- 第 9 回低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉～つながろう 広がろう 世代を超えて エコの環～
【2018/12/1】

- エコプロ 2018【2018/12/6-8】
- 地域公共交通シンポジウム in 北海道 ～地域で導き出す最適な地域公共交通体系の形成に向けて～【2018/12/7】
- 京都環境フェスティバル 2018【2018/12/8-9】
- 第 17 回グリーン物流パートナーシップ会議【2018/12/11】
- 第 16 回 ITS シンポジウム 2018【2018/12/13-14】
- 第 39 回 EST 創発セミナー in 姫路〔近畿〕～モビリティでよみがえる地方都市空間(仮)～【2019/2/26】
- 都市計画法 50 年・100 年記念シンポジウム(第 2 弾) 都市計画の領域と新展開 ー新たなフレームワークの構築に向けてー【2019/5/31】

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ
- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！
- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！
- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！
- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！
- 「運輸・交通と環境」を発行しています！
- 記事募集中！

1. 寄稿(1)「環境的に持続可能な交通を目指して」(第 148 回)

●「都市交通として見たシェアサイクルのトータルデザインの必要性 ～量から質へ～ネットワークとして機能するためのシェアサイクル」

【公益社団法人日本交通計画協会 交通計画研究所 三浦清洋】

シェアサイクルシステムの導入目的に、「環境」という言葉を用いて導入している事例は多くみられます。では、どのように環境負荷軽減効果を発現させるのか？自転車は、空気清浄機ではないので単に導入しても環境への効果は生まれません。例えば、二酸化炭素削減効果を発揮するためには、駅からの端末として鉄道と組み合わせてネットワークとして使われることで、初めて自動車からの転換が想定され環境負荷軽減効果がでるわけです。

このような機能を発揮するには、一定規模の利用量が必要ですが、海外のシステムとくらべ、これまで日本のシステムは小規模なものでした。しかし近年、その規模が大きくなってきており、それに乗じて利用率も向上してきています。例えば東京都心区で実施されている、複数の区での広域利用については、実数的にもすでに一日に 2 万回に近いトリップを発現する日もできており、鉄道との連携もみられるようになってきています。都心を歩いているとかならず 1 日 1 回以上は目にするという状況になってきており、短距離移動の際の交通手段の選択肢の一つとして都市交通としての機能を発揮しつつあると言えます。

このサービスレベルに達するためには、事業主体である公共団体・運営主体であるオペレーター企業の試行錯誤と努力がありました。このシステムは、トレードオフの関係が現れやすいシステムだと言えます。例えば、利用者の利便を追求しようと、偏った自転車を別の拠点に移動する再配置の頻度をあげれば、その部分だけのニーズには応えられるかもしれないが、全体で見れば、バランスの悪い投資なだけかもしれません。

そこで必要になるのは、サービス全体での投資と公益的視点をもった効果を見据えた、トータルデザインだと考えます。単なる「量」への対応はなく、量の考え方を規定する「質」が重要になってくると考えます。

ここ数年で、IoT による新たなシステム導入や、新興系企業の参入などでの話題に耳目があつまっていた同システムですが、経営システムの不完全さからの撤退なども散見されるようになってきました。もう一度、ニーズの本質を見据え、公共の役割や運営・管理まで含めたトータルデザインを行うことで、事業としての持続可能性をもたせ、それをもって環境など社会的ニーズに寄与させる、という視点にもどるべき時期にあらうと考えます。

2. 寄稿(2)「地方から全国に向けた情報発信！」(第 148 回)

●「地域交通と観光交通が一体となった環境にやさしい交通体系づくり」

【弟子屈町地域公共交通活性化協議会 事務局 高田佑人】

弟子屈町地域公共交通活性化協議会は平成 20 年に設立されました。

これまでも排気ガスが環境に与える影響を調査するため、摩周湖への自家用車乗り入れを規制して「摩周湖バス」を試験運行するなど、環境保全ための取り組みとして公共交通の活用を図ってきました。しかし、公共交通による町内観光地へのアクセスは限定されており、移動手段として自家用車がなければ観光できないというのが実情でした。そうした中で、視点をアクセス規制から公共交通機関によるアクセス充実に切り替え、車に頼らず観光ができる交通体系づくりを目指し、平成 21 年度より弟子屈エコパスポート事業は開始されました。

開始当初のエコパスポートは、JR の特別企画切符として発売された町内のバス・鉄道 2 日間乗り放題券で、これによって町へのアクセスから観光地までの移動が車に頼らずにできるようになりました。利用者は手荷物預かりサービスや町内店舗での特典が受けられ、バスの燃料に食用廃油を原料としたバイオディーゼルを使用し、運行収益の一部をカーボンオフセットマネーに充てるなど、利便性と環境にやさしい交通との両立を目指すという取り組みは現在まで変わっていません。

平成 26 年にはこれらの取り組みに加え、利用者により弟子屈町の魅力を知ってもらおうと、エコパスポートをバス乗り放題へと変更し、券種も 2 日・3 日・5 日・7 日券の 4 種類を増やして滞在型観光の移動手段としての充実を目指しました。また、昨今急増している外国人旅行者対策として音声案内や時刻表の多言語化なども進めてきました。

これらの取り組みが評価され、平成 23 年度に地域公共交通活性化・再生優良団体大臣表彰、そして昨年 29 年度には第 9 回 EST 交通環境大賞奨励賞をいただくことができました。

本年度は総合連携計画策定から 10 年となり、弟子屈エコパスポート事業も一つの節目を迎えました。今後もエコパスポート事業で培ったノウハウを活かし、観光客や住民のニーズに合った、より利用しやすい公共交通体系づくりを目指していきたいと思います。

3. ニュース／トピック

●第 10 回 EST 交通環境大賞の応募を受付中！【EST 普及推進委員会】

EST 普及推進委員会及びエコモ財団では、地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰する EST 交通環境大賞の応募を受け付けています。以下のウェブページをご覧ください、全国各地で交通環境対策に取り組まれている自治体、企業、市民団体等の皆様が応募されることを期待しています。

<http://www.estfukyu.jp/kotsukankyotaisho2018.html>

●「平成 30 年度エコドライブ活動コンクール」の結果を発表しました【エコモ財団】

5 月 1 日～7 月 2 日に募集した「平成 30 年度エコドライブ活動コンクール」(主催:エコモ財団、後援:エコドライブ普及連絡会、エコドライブ普及推進協議会)に、383 件、1,693 事業所より応募を頂きました。審査委員会(審査委員長:早稲田大学 研究院 次世代自動車研究機構 大聖 泰弘 特任研究教授)で、国土交通大臣賞に株式会社ロジパルクスプレス(事業部門)、環境大臣賞に株式会社サンゲツ(一般部門)のほか、優秀賞 7 件、優良賞 40 件、審査委員長特別賞 2 件が選考されました。また、一定レベル以上の活動をしていると評価された事業者 49 件には、「エコドライブ優良活動認定証」が授与されました。

<http://www.ecodrive.jp/data/ecodrive-activity-concours2018.pdf>

●MaaS などの新たなモビリティサービスの全国展開を目指します～第 2 回「都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会」の開催～【国土交通省】

国土交通省は、MaaS^{*}などの新たなモビリティサービスの活用により、都市・地方が抱える交通サービスの諸課題を解決することを目指し、日本型 MaaS の将来像や、今後の取組の方向性などを検討するため、11 月 6 日に第 2 回懇談会が開催され、MaaS について民間事業者からのヒアリングなどが行われました。

※MaaS(マース):“Mobility as a Service”の略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段をシームレスに一つのアプリで提供するなど、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo12_hh_000124.html

●グリーン物流パートナーシップ会議で優れた取組を表彰【国土交通省】

国土交通省は 12 月 11 日に第 17 回グリーン物流パートナーシップ会議を開催し、持続可能な物流体系の構築に顕著な功績があった事業者に対する大臣表彰等の各種表彰及び受賞事業者による表彰事例の紹介を行います。

グリーン物流パートナーシップ会議は、物流分野の CO₂ 排出削減に向けた自主的な取組の拡大に向けて、荷主企業と物流事業者が広く連携していくことを促進するため平成 17 年に設立されたもので、会員数は荷主企業、物流事業者、各業界団体など 3,300 を超えます。

http://www.mlit.go.jp/report/press/tokatsu01_hh_000412.html

●電気自動車のバッテリーを有効活用するエネルギーマネジメント技術を開発【三菱電機】

三菱電機株式会社は、駐車中の電気自動車(EV)や蓄電池などの蓄電設備と、太陽光発電(PV)や発電機などの発電設備を組み合わせた需要家向けのエネルギーマネジメント技術を開発しました。環境意識の高まりから、今後増加するEVを建物の蓄電池として活用し、電気料金単価の変動に連動してEVの充放電スケジュールとPVなどの発電設備の運転を最適化することで、建物の電力コスト削減に貢献します。

<http://www.mitsubishielectric.co.jp/news/2018/1025-a.html>

●廃棄物発電を活用した「エネルギー循環型ごみ収集システム」によるEVごみ収集車(電池交換型)を実用化します【川崎市】

近年、EV車や燃料電池車等のCO₂排出量がゼロの地球環境にやさしい車の普及が進む中、川崎市は、廃棄物発電^{*}を活用した「エネルギー循環型ごみ収集システム」による、EVごみ収集車(電池交換型)を日本で初めて実用化します。

そのため、JFEエンジニアリング株式会社と平成28年3月に協定を締結し、協働で実証を重ね、このたび、同社とシステム導入に係る契約を締結いたしました。

※廃棄物発電:ごみ焼却施設でのごみ焼却により得られる蒸気による発電

<http://www.city.kawasaki.jp/templates/press/cmsfiles/contents/0000100/100561/ho-do.pdf>

●静岡市でモーダルシフト説明会【JR貨物】

日本貨物鉄道株式会社は来年1月25日、静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」(静岡市駿河区)で、「静岡貨物駅モーダルシフト説明会」を開催します。

「トラック・ドライバーの確保に悩んでいる」、「鉄道コンテナ輸送を検討してみたい」、「物流の環境対策に手を打ちたい」といった企業の物流担当者を対象に、鉄道コンテナ輸送やモーダルシフトの紹介のほか、併せて静岡貨物駅の見学会も実施します。

<https://www.jrfreight.co.jp/storage/upload/c8486891cf83f82d5a7e9309d2cc7439.pdf>

●自家用車に代わる移動手段を募集する競技会を開催【スウェーデンエネルギー庁】

スウェーデンエネルギー庁は、温室効果ガスの排出削減を目標に、交通の解決策を募集する「持続可能なモビリティチャレンジ」を立ち上げました。スウェーデンは2045年までに化石燃料を使用しない輸送部門の実現することを目標としています。同チャレンジは、さまざまな移動手段を組み合わせたシームレスな移動サービスを提供することで、自家用車を所有しないという選択を後押しすることを目的としています。世界中から応募を受け付け、3人の受賞者には計15万ユーロの賞金を授与したうえ、スウェーデン市場参入の機会が提供されます。

<http://www.energimyndigheten.se/en/news/2018/new-innovation-competition/>

4. イベント情報

●第9回低炭素まちづくりフォーラムin埼玉～つながろう 広がろう 世代を超えて エコの環～

日時:2018年12月1日(土)10:00～16:30

場所:芝浦工業大学 大宮キャンパス 齋藤記念館、2号館

主催:第9回低炭素まちづくりフォーラムin埼玉実行委員会

<http://www.kannet-sai.org/about/activities/2018/1201.html>

●エコプロ2018

日時:2018年12月6日(木)～8日(土)10:00～17:00

場所:東京ビッグサイト 東ホール

主催:(一社)産業環境管理協会、日本経済新聞社

<http://eco-pro.com/2018/>

●地域公共交通シンポジウム in 北海道 ～地域で導き出す最適な地域公共交通体系の形成に向けて～

日時:2018年12月7日(金)14:00～17:30

場所:TKP 札幌駅カンファレンスセンター

主催:国土交通省北海道運輸局

<http://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/press/presspdf/201811/20181114.pdf>

●京都環境フェスティバル2018

日時:2018年12月8日(土)～9日(日)10:00～16:00

場所:京都府総合見本市会館

主催:京都環境フェスティバル実行委員会

<http://kankyofes.kyoto/>

●第17回グリーン物流パートナーシップ会議

日時:2018年12月11日(火)13:30～16:30

場所:日経カンファレンスルーム(日経ビル6階)

主催:国土交通省、経済産業省、(一社)日本物流団体連合会、(公社)日本ロジスティクスシステム協会

<http://www.greenpartnership.jp/active/>

●第16回ITSシンポジウム2018

日時:2018年12月13日(木)～14日(金)

場所:同志社大学 今出川校地室町キャンパス 寒梅館

主催:同志社大学、特定非営利活動法人 ITS Japan

http://www.its-jp.org/event/its_symposium/16th2018/

●第 39 回 EST 創発セミナーin 姫路〔近畿〕～モビリティでよみがえる地方都市空間(仮)～

日時:2019 年 2 月 26 日(火)13:30～16:50

場所:姫路キャスパホール

主催:姫路市、国土交通省近畿運輸局、EST 普及推進委員会、エコモ財団

<http://www.estfukyu.jp/sohatsu59.html>

●都市計画法 50 年・100 年記念シンポジウム(第 2 弾) 都市計画の領域と新展開 ―新たなフレームワークの構築に向けて―

日時:2019 年 5 月 31 日(金)12:30～15:10

場所:東京大学(弥生講堂)

主催:(公社)日本都市計画学会

<http://www.cpij.or.jp/com/50+100/1st20181117.html>

5. その他

- 「グリーン経営認証」に関する情報は、専用ホームページへ

<http://www.green-m.jp>

- エコ通勤優良事業所を認証登録しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/ecommuters/ecommuters_top.html

- 交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)メールマガジンを発行しています！

配信申込はこちらから

<http://www.mm-education.jp:80/magazine.html>

- 交通・観光事業者によるカーボンオフセットの取組みを支援しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/carbon_offset/carbonoffset_system.html

- 電動小型低速車に関する情報を掲載しています！

http://www.ecomo.or.jp/environment/nev/nev_top.html

- 「運輸・交通と環境」を発行しています！

(日本語版)

<http://www.ecomo.or.jp/environment/unyukotsutokankyou/index.html>

(英語版)

<http://www.ecomo.or.jp/english/tej.html>

- 記事募集中！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。

EST、または「交通と環境」に関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。 → E-mail: magazine@ecomor.jp (担当: 熊井、中道)

発行: 環境的に持続可能な交通 (EST) 普及推進委員会事務局

(公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団)

配信申込、バックナンバー閲覧はこちらから

<http://www.estfukyu.jp/mailmagazine.html>

配信停止はこちらから

https://p.bmb.jp/bm/p/f/tf.php?id=mail_ecomo

EST ポータルサイト: <http://www.estfukyu.jp/>